

学校の小規模化による影響について

児童生徒への影響

【授業に関すること】

- ・少人数になると教員による個別指導を受ける時間が増える。
- ・自分の意見や感想を発表する機会やリーダーを務める場が増える。
- ・特別教室、教材などが余裕をもって使える。
- ・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ・多様な意見や感想を聞きづらくなり、授業展開に制約が生じる。
- ・担当する教科の免許をもたない教員(臨時免許をもつ)による授業を受ける可能性が高くなる。(1学年、3学級以上になるとすべての教科で免許外指導をなくせる可能性が高い)【中学校】

【複式学級に関すること】

■複式学級を編成する基準

○小学校

- ・2つの学年で編成し16人以下。ただし1年生を含む場合は8人以下。

○中学校

- ・2つの学年で編成し8人以下。

■複式授業

同一教室で、二つの学年が異なる内容を同時に学ぶ。教員は二つの学年を行き来して指導する。子どもたちは、教員なし(同一教室内に教員はいるが)で学習する時間が生じる。

- ・複式学級で学ぶことになると、児童生徒だけで学習を進める力がつく。
- ・兄弟姉妹が同じ教室で学ぶことがある。
- ・複式学級で学ぶことになると、「今、教員からの指導があるとよい」と考えられるタイミングで指導を受けられないことがある。
- ・複式学級では、単式学級の指導順と異なる順で指導することがあり、転校時に未習事項が生じることがある

【人間関係に関すること】

- ・進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ・男女比の偏りが生じやすくなる。
- ・クラス替えができず、人間関係が固定化しやすくなり、自分や友達に対して固定観念が生じやすくなる。
- ・集団の中で自己主張をしたり、他者と協力したりする経験が積みにくくなる。

【行事等に関すること】

- ・異学年合同による学習活動が仕組みやすくなる。
- ・保護者や地域の協力が得られやすい
- ・運動会や文化祭で活動内容に制限が生じる。

教職員への影響

- ・学校規模が小さくなると教職員の人数は減る

【業務量に関すること】

- ・複式指導が必要になり、専門的な研修が必要になる。
- ・複数学年の授業準備が必要になる。
- ・専門教科以外の授業を担当する可能性が高くなり、授業準備に時間がかかる。【中学校】
- ・会議や研修等へ出張することが困難になる
- ・学校施設の清掃や保全等の管理の負担が大きくなる

学校運営上の影響

- ・学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある
- ・教員個人の力量の差が、学校運営に直結しやすくなる
- ・教職員の経験年数、専門性、男女比等のバランスがとりづらくなり、学校運営に影響が出る可能性がある
- ・チーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる